

新字名所和方集

二

津田文庫  
文庫 1  
1627  
2



新古今歌集第二

知行

千代古浦

山城 葛野郡

後撰雜

あふ山みゆきたふし 行山のみたひの道はなかり 在原行平

新古今雜

さうの山みゆきたふし 行山のみたひの道はなかり 定家

續古今

春 子月と千代古浦の道はなかり 太上天皇

同夏

あふ山みゆきたふし 行山のみたひの道はなかり 家隆

同哀傷

あふ山みゆきたふし 行山のみたひの道はなかり 後小松院

千代古浦

あふ山みゆきたふし 行山のみたひの道はなかり 源満元

後撰恋五

伊勢舟の千代古浦の道はなかり 敦忠朝臣

千代古浦

あふ山みゆきたふし 行山のみたひの道はなかり 敦忠朝臣

新古今賀

あふ山みゆきたふし 行山のみたひの道はなかり 太皇太后

新古今賀

あふ山みゆきたふし 行山のみたひの道はなかり 前中納言

新古今賀

あふ山みゆきたふし 行山のみたひの道はなかり 後同三司

千代古浦

あふ山みゆきたふし 行山のみたひの道はなかり 後同三司

千代古浦

あふ山みゆきたふし 行山のみたひの道はなかり 後同三司



つた文庫

010190607394



拾遺雜記 系代とくろくを紀ふらるる凡漢の事ありき 清原元浦  
又後拾遺記 系代とくろくを紀ふらるる凡漢の事ありき 權大納言  
後後撰實 系代とくろくを紀ふらるる凡漢の事ありき 權大納言

千代実浦

筑前

後拾遺志 千代実浦の波もさるるなりとてしるす 道信朝臣  
新後撰志 千代実浦の波もさるるなりとてしるす 左近将良

千代村

志勸

新抄遺實 町と書きて千代の村の千代とてしるす 權中納言  
新抄遺實 町と書きて千代の村の千代とてしるす 權中納言

新門

大和

新門は海よりして新門とてしるす 見仍當國載之  
新門は海よりして新門とてしるす 見仍當國載之

古今雜上

たらぬぬとてしるす 伊勢

後拾遺雜記

千代実浦の波もさるるなりとてしるす 中納言

同

千代実浦の波もさるるなりとてしるす 井乳母

千代實上

千代実浦の波もさるるなりとてしるす 藤原清輔

同

千代実浦の波もさるるなりとてしるす 藤原清輔

布引滝

板橋

布引の滝ありてしるす

古今雜

布引の滝ありてしるす 行平

同

布引の滝ありてしるす 業平

同

布引の滝ありてしるす 業平

同

布引の滝ありてしるす 橋本

白雲

白雲とてしるす 橋本

金葉雜上

白雲とてしるす 橋本

同

白雲とてしるす 橋本

詞花雜上

白雲とてしるす 橋本

千載雜上

白雲とてしるす 橋本

同

若きものこころをいふ事其教をいふなりもたは布引の流 藤原良清

布引の流をいふ事

新撰舞中

我世然もまよふまよふも結ぶの涙流とあはれなるもの 行平

同

久々の天降し女も山をわたり井もわたり守布引の流 二在国首内臥

同

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

新撰舞中

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん

新撰舞中

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

同

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

同

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

新撰舞中

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

同舞

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

新撰舞中

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

新撰舞中

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

新撰舞中

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

新撰舞中

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

新撰舞中

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

新撰舞中

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

新撰舞中

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

新撰舞中

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

新撰舞中

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

新撰舞中

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

新撰舞中

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

新撰舞中

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

新撰舞中

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

新撰舞中

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

新撰舞中

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

新撰舞中

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

新撰舞中

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

新撰舞中

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

新撰舞中

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

新撰舞中

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

新撰舞中

布引の流の白糸わたりらふとひく流もくせぬらん 藤原行能

同雜上

あはれみの水はあまの年換りもあはれしあまの海は忠峯

あまのたふたふたよめ

同

月夜もあはれしあまの海はあまの年換りもあはれしあまの海は忠峯

後撰夏

同秋上

あまのたふたふたよめ

指中納言の敷忠のあまの海はあまの年換りもあはれしあまの海は忠峯

後撰春

金葉夏

同秋

あまのたふたふたよめ

同冬

同恋

同雜中

あまのたふたふたよめ

後撰秋下

同恋

後古今春上

同

同雜

同

同中

後拾遺秋上

新後撰春上

同

同夏

同

同恋

同雜上

玉葉夏

あまのたふたふたよめ

平頼春

有家

後頼

為氏

正三位知家

宗も親王

忠峯

躬恒

俊成

伊勢

攝政

高倉院

俊頼

曾孫好忠

後人不知

周防内侍

権中納言

順徳院

九条右大臣

定家

光明院

金道

前左大臣

太上天皇

清輔

西園寺入道

前太政大臣

太上天皇

正三位知家

宗も親王

後頼

為氏

有家

平経正

平頼春



後推送賀

大なる小坂の松うゑ名代のついでに成り

権太右衛門

同神祇

千石梅と云ふ山の松に

山崎道彦

新撰撰神祇

と云ふ山の松に

前在

後千載春

大なる小坂の松うゑ

正三在

同神祇

二葉なる松と云ふ

柏秀房

同恋三

大なる松と云ふ

中臣師宗

同雜上

言て松林の松と

左大臣

後推送賀

大なる小坂の松うゑ

從三位久

同神祇

松林の松と云ふ

為氏

凡雅神祇

大なる松と云ふ

為定

新千載春

大なる松と云ふ

後三条道

新撰撰神祇

大なる松と云ふ

前内大臣

小蔵 山野里峯

山城 葛野郡

古今秋下

大なる松と云ふ

貫之

同冬

大なる松と云ふ

後人不知

同雜一

大なる松と云ふ

業平

拾遺夏

大なる松と云ふ

平兼盛

同秋

大なる松と云ふ

後撰能宣

同秋

大なる松と云ふ

大中臣

同雜秋

大なる松と云ふ

貞信公

後推送整

大なる松と云ふ

江侍從

雄倉の家小作の松

大なる松と云ふ

大なる松と云ふ

大なる松と云ふ

同雜五

大なる松と云ふ

中務卿

金葉秋

大なる松と云ふ

源師賢

同冬

大なる松と云ふ

道命法師

千載秋上

大なる松と云ふ

道命法師



新古今秋上

とくら山ありとの野へ入るを鹿かのふみあはのゆすれ 後人不知

同

何ふらあういんねの雲想と小菰山とあきとあき 大江千里

同秋下

鳴るの音どのさうさく小菰山とあきとあき 清原深養

同冬

雄飛山と藤原の里と小菰山とあきとあき 西行法師

同

山とあきと小菰山とあきとあき 道念法師

新勅撰秋上

小菰山と藤原とあきとあきとあき 西行法師

同秋下

我らと小菰山の山とあきとあきとあき 公家院高倉

同

所あきとあきとあきとあきとあき 西行法師

同

房のあきとあきとあきとあきとあき 從三位範宗

同

候後撰秋上 妻あきとあきとあきとあきとあき 権中納言長

同

小菰山とあきとあきとあきとあきとあき 若原経定

同秋下

小菰山とあきとあきとあきとあきとあき 順徳院

同

小菰山とあきとあきとあきとあきとあき 定家

同

小菰山とあきとあきとあきとあきとあき 大上天皇

同

小菰山とあきとあきとあきとあきとあき 舒明天皇

同

小菰山とあきとあきとあきとあきとあき 夜笠前内大臣

同

小菰山とあきとあきとあきとあきとあき 友原光俊

同

小菰山とあきとあきとあきとあきとあき 定家

同

小菰山とあきとあきとあきとあきとあき 為氏

同

小菰山とあきとあきとあきとあきとあき 津守国冬

同

小菰山とあきとあきとあきとあきとあき 為家

同

小菰山とあきとあきとあきとあきとあき 権中納言雄

同

小菰山とあきとあきとあきとあきとあき 為家

同

小菰山とあきとあきとあきとあきとあき 基基俊

同

小菰山とあきとあきとあきとあきとあき 四条皇太后

同

小菰山とあきとあきとあきとあきとあき 宮信濃

同

小菰山とあきとあきとあきとあきとあき 延政門院

同

小菰山とあきとあきとあきとあきとあき 新大納言

同

小菰山とあきとあきとあきとあきとあき 為家

後人不知 大江千里 清原深養 西行法師 道念法師 西行法師 公家院高倉 西行法師 從三位範宗 権中納言長 若原経定 順徳院 定家 大上天皇 舒明天皇 夜笠前内大臣 友原光俊 定家 為氏 津守国冬 為家 権中納言雄 為家 基基俊 四条皇太后 宮信濃 延政門院 新大納言 為家 石大臣 中務卿親王 権中納言雄

後撰拾遺妻入并川島... 為家

同秋下 秋の夕べ... 坂上是則

同 小倉山... 為相

同 小倉山... 式部

同 小倉山... 為家

同 小倉山... 同

同 小倉山... 權中納言

同 小倉山... 俊成

同 小倉山... 定家

同 小倉山... 録筆

同 小倉山... 前納言

同 小倉山... 後醍醐院

同 小倉山... 為家

同 小倉山... 清輔

同 小倉山... 權中納言

同 小倉山... 權僧正

同 小倉山... 前納言

同 小倉山... 宗仲法師

同 小倉山... 從位推宗

同 小倉山... 前在兵部督

同 小倉山... 教定

同 小倉山... 山城

同 小倉山... 山城

同 小倉山... 山城

同 小倉山... 山城

同 小倉山... 山城

同 小倉山... 山城

同 小倉山... 山城

同 小倉山... 山城

同 小倉山... 山城

同 小倉山... 山城

同 小倉山... 山城

同 小倉山... 山城

同 小倉山... 山城





後古今雜下とくくは道のりもむ終り後をまはらばし 寺門院

小野 古江湊

伊勢

金葉別雜 伊勢の海の小野にたはりて果て都はりのゆれを思 糸織師願

後後撰恋 伊世の海の小野の湊の流にあらはれしとむ人のあを思 後人不知

後古今秋上 湊の守り夕波流し 伊勢の海の小野にたはりて思 中宮親王

新後撰恋 心也の海にたはりて湊の流にあらはれしとむ人のあを思 衣葉内大臣

新平載真 ありし若の末葉を思ひて成るるを思ふ湊の流にあらはれしとむ人のあを思 衣葉内大臣

同冬 伊勢の海にたはりて湊の流にあらはれしとむ人のあを思 衣葉内大臣

小塩井

同

豊受太神宮ゆてと春のりよめり

月雅神祇 小塩井とくふ名水よふ流してあらはれしとむ人のあを思 度會家行

同 世とて汲るつに久望のあを思ふらるる小塩井の水 度會延誠

巻迄

駿河

新抄送旅 ありし若の末葉を思ひて成るるを思ふ湊の流にあらはれしとむ人のあを思 法下定田

小塩原

甲斐

同 小塩原とくふ名水よふ流してあらはれしとむ人のあを思 法下定田

新上載雜 小塩原とくふ名水よふ流してあらはれしとむ人のあを思 大納言頼

忍田原

近江

後後撰送春 ありし若の末葉を思ひて成るるを思ふ湊の流にあらはれしとむ人のあを思 由慶法師

音高山

同

後千載神祇 ありし若の末葉を思ひて成るるを思ふ湊の流にあらはれしとむ人のあを思 巨房

月雅賀 ありし若の末葉を思ひて成るるを思ふ湊の流にあらはれしとむ人のあを思 俊成

小法敷

近江 滋賀郡

後後撰神 ありし若の末葉を思ひて成るるを思ふ湊の流にあらはれしとむ人のあを思 日土社古お

後抄送神祇 ありし若の末葉を思ひて成るるを思ふ湊の流にあらはれしとむ人のあを思 祝部成良

月雅神祇 ありし若の末葉を思ひて成るるを思ふ湊の流にあらはれしとむ人のあを思 日土地主権

新抄送神祇 ありし若の末葉を思ひて成るるを思ふ湊の流にあらはれしとむ人のあを思 現田あさ

姨捨山

信濃 更級郡

古今雜上 ありし若の末葉を思ひて成るるを思ふ湊の流にあらはれしとむ人のあを思 後人不知

後撰恋 ありし若の末葉を思ひて成るるを思ふ湊の流にあらはれしとむ人のあを思 同

同 ありし若の末葉を思ひて成るるを思ふ湊の流にあらはれしとむ人のあを思 源重光



同四

新千載卷五

同

同

同

同五

同

同

新古今秋

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

あま事を流後の橋より一橋まゝを流るゝひたつらふ 式部卿 王

新千載卷五 琴の流をちりききくもこれ琴を流後の橋守を流る 定家

とて流るゝの流を流るゝとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 為氏

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 氏無心賢宣

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 在原長秀

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 前僧正俊

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 定家

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 源重之

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 駿河院輔

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 宣内

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 家隆

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 有家

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 俊成

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 式子内親王

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 西園寺

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 俊成

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 有家

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 今市郎

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 俊成

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 德義院

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 勝命法師

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 俊京極

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 津守国助

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 前番議

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 正三位知家

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 家隆

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 前氏内言

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 有家

あま事こやとて流るゝの流を流るゝの流を流るゝの流を流るゝ 有家

同雑中 元くも今は何も松崎やと云ふもの故と云わて 前繪共中

小黒崎

陸奥

古今本意 小黒崎のの鳴るる人部の時と云と云と  
後古今雑中 小黒崎のの鳴るる人部の時と云と云と  
不上天皇

雄琴ノ里

備中 或多道江

金葉賀 松見と云との里と云と云と云と云と云と云と  
在教光

音云

滝川

紀伊 牟婁郡

於遠恋二 悲情の多秋なるあん群をてつとあらんもあつ滝 後人不知  
同 名も此河をてつとあらん群をてつとあらんもあつ滝 元輔

越野まゝるるてあす出らんとし物事あはふんてき  
しとあつひちらんや群とゆりて行りて那とつ  
ゆあつ行ふもあつ川の川と云と云と云と云と云と  
物れ物れをんそよらる

後拾遺雜 少くも有と白く成少も我を金吉時や事あかん 増基江竹  
金葉賀 知れと云もあつ川と云と云と云と云と云と云と 源風情

後古今恋上 名も此河のあよととりあひよと云と云と云と云と云と 鳥家

後拾遺夏 名も此河のあよととりあひよと云と云と云と云と云と 友原忠資

同恋二 名も此河のあよととりあひよと云と云と云と云と云と 云門院

新千載恋 人さきあつ川と云と云と云と云と云と云と 徒三位為信

新拾遺雜 部合と云と云と云と云と云と云と云と 能目法師

緒持山

紀伊 牟婁郡 牟婁郡 牟婁郡 牟婁郡

後古今雜下 名も此河のあよととりあひよと云と云と云と云と云と 持手元

後拾遺秋 名も此河のあよととりあひよと云と云と云と云と云と 友原忠資

同冬 名も此河のあよととりあひよと云と云と云と云と云と 源有長

新拾遺雜 名も此河のあよととりあひよと云と云と云と云と云と 前々法師

忘水

大和 山辺郡 備前有名

新後撰 名も此河のあよととりあひよと云と云と云と云と云と 寂起法師

詞花恋下 名も此河のあよととりあひよと云と云と云と云と云と 寂起法師

後拾遺夏 名も此河のあよととりあひよと云と云と云と云と云と 寂起法師



後千載神

津身海國

輪四の碕

同 八部郡

玉葉雜二

夕陽日やこのふたはと博舟のうら

忘井

伊勢

千載藤

天仁九年齋文群乃時兵弁とつて

若松原

伊勢 三重郡紀伊有同名

新古今旅

妹のいひわろ松原とわきまを

後古今雜上

伊勢津やわろ松原とわきまを

凡雅春上

伊勢津やわろ松原とわきまを

新古今員

若松原の松原とわきまを

度會

同 度會郡

同夏

若松原とわきまを

我立松

同 度會郡

後拾遺雜歌

又とてん山田ありとも思ひ

新法撰尺教

思ひさや我立松のういあり

同雜上

身春とわろ松原とわきまを

玉葉秋下

世代わろわろ松原のありとも

後千載雜中

ちゆと又我立松とわきまを

風雅雜中

この春と乃道とわきまを

新千載雜上

今も我立松のありとも

同中

思ひさや我立松のありとも

同賀

若松原とわきまを

新集是雜上

若松原とわきまを

若松原

院の時時久矣二年大業會

若松原

同 度會郡

院の時時久矣二年大業會

若松原のありとも

千載賀

若松原のありとも

若松原

同 度會郡

若浦

紀伊

古今事類

又後古雜

後後選種

金葉雜

詞化雜上

同及

十載雜上

新及賀

同雜上

同中

同下

新勅撰秋下

同雜

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

若浦の浦は満ちて風をうけて波はわたりてはるはる

むの浦はまじりてとてあそびあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

あそびの浦はあそびの浦はあそびの浦はあそび

赤入

連教法師

前中納言

大納言

贈左大臣

祝部成仲

源家長

民部卿

慈田

寂蓮

家隆

法眼宗

行念法師

前太政大臣

正三位知家

右原高綱

中原師幸

平春時

後京極

友永隆信

平時直

右京左衛門

右京左衛門

右京左衛門

右京左衛門

右京左衛門

右京左衛門

右京左衛門

右京左衛門

右京左衛門

右京左衛門

右京左衛門

右京左衛門

右京左衛門

同

新撰撰本

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

川の浦はちひよりのくま原陸を流のちわさよふに集ま

為家

終も是名の代へ流をあてとて入りあつたのうら流

道法法師

川の浦は流の道とて流の浦は流の浦は流の浦は流

前園

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

俊成

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

為家

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

為世

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

院に集

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

津守国助

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

金道前良賢

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

為氏

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

法皇に集

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

園前良賢

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

大宰大貳

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

俊成

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

俊成

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

俊成

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

俊成

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

俊成

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

俊成

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

俊成

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

俊成

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

俊成

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

俊成

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

俊成

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

俊成

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

俊成

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

俊成

流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流の浦は流

俊成

後拾遺中

平貞直  
源高氏

不仁高廣  
侍從隆教

前住持言定  
資

法眼行陀  
法眼源兼

右原長遠

州波忠守

比行春

前左兵衛督  
惟方

俊成

平久時

大江宗時

友原隆信

賴政

公泉前大政

源宗氏

前住持正通

少長

前住持正俊

二市門院

為世

後照念院園  
白太政大臣

紀叔氏

前住持正性

善田

大僧正道順

右原賴時

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同雜中

同

同

同

同

同

同

勅撰載冬

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

凡雅雜上

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同



同

同

新撰抄  
秋雜

同

同

同別

同雜

同

同

同

同

同

同

同

同

同賀

新撰抄  
上卷

同冬

同賀

同雜上

同

同雜中

同

同

同

同

同

同

同

わの浦よ年ありたのちをみよすあけりるるるり

若の浦よふと果ふし梓舟と今人船と世にひられつ

わの浦よ海ひらるとやと浪ちもこの世とつを重ん

ちるをよ若の浦よ女ち鳥のひんねのよとつを重ん

たのおともわの浦ちとらたち浦つととみ書やつえん

若の浦よわの浦波れ女ちとらと別ゆけはとつと

わの浦よ松よ終をぬ風言の舞ちとつとつとつと

今あはれ教よとあやも浦入江のりつとつとつと

藤原若よすつあやも浦入江のりつとつとつと

みくららとつとつとつとつとつとつとつとつと

及あきつとつとつとつとつとつとつとつと

流あきつとつとつとつとつとつとつとつと

柳もつとつとつとつとつとつとつとつと

若の浦よわの浦波れ女ちとらと別ゆけはとつと

さてもねあつとつとつとつとつとつとつとつと

若の浦よわの浦波れ女ちとらと別ゆけはとつと

わの浦よ海ひらるとやと浪ちもこの世とつを重ん

ちるをよ若の浦よ女ち鳥のひんねのよとつを重ん

たのおともわの浦ちとらたち浦つととみ書やつえん

若の浦よわの浦波れ女ちとらと別ゆけはとつと

わの浦よ松よ終をぬ風言の舞ちとつとつとつと

今あはれ教よとあやも浦入江のりつとつとつと

藤原若よすつあやも浦入江のりつとつとつと

みくららとつとつとつとつとつとつとつとつと

及あきつとつとつとつとつとつとつとつと

流あきつとつとつとつとつとつとつとつと

柳もつとつとつとつとつとつとつとつと

若の浦よわの浦波れ女ちとらと別ゆけはとつと

さてもねあつとつとつとつとつとつとつとつと

藤原若

前中納言

三善為永

小槻匡遠

左大臣

源義時

源義時

源義時

源義時

源義時

源義時

源義時

源義時

源義時

源義時

源義時

源義時

源義時

源義時

源義時

源義時

源義時

源義時

源義時

源義時

源義時

源義時

源義時

源義時

同 同の浦やまわりの友ふららけて若人懐入りしものも也 無品親王

同 若浦の若きよけをやらんかき波のまらけのつれ 従三位行丈

同 若の浦よりの七千の波の波をなほしむるけけの 前中細言

同 若の浦や月を便るる今もさうむそのあまれあふ 友宗秀茂

同 若れおて道まるといふ若浦はあはれもあはれ 法下慶運

同 若の浦の若きとゆし藤原若き南人世をまるといふ 後京極

同 若守れりれ浦波のつれあつても道の林とてしき 法下宗助

新後拾遺 若浦よりのひや果んむまはれはあふのあはれ也り 権大僧都亮

若松魚 紀伊 名草 海部 西郡 可尺 兼倉右大臣

忘水 未勳 大和宣旨

後拾遺 若くとも中よりの水終るくともあはれ 橋俊宗女

金葉恋 若しやあふふらとむしあふりさけさそ思ひの思ん 淡人不知

同 若くとも中よりの水終るくともあはれ 康賢王母

新古今 若くとも中よりの水終るくともあはれ 康賢王母

同 若くとも中よりの水終るくともあはれ 康賢王母

同 若くとも中よりの水終るくともあはれ 康賢王母

同 若くとも中よりの水終るくともあはれ 康賢王母

同 若くとも中よりの水終るくともあはれ 康賢王母

同 若くとも中よりの水終るくともあはれ 康賢王母

同 若くとも中よりの水終るくともあはれ 康賢王母

同 若くとも中よりの水終るくともあはれ 康賢王母

同 若くとも中よりの水終るくともあはれ 康賢王母

同 若くとも中よりの水終るくともあはれ 康賢王母

同 若くとも中よりの水終るくともあはれ 康賢王母

同 若くとも中よりの水終るくともあはれ 康賢王母

同 若くとも中よりの水終るくともあはれ 康賢王母

同 若くとも中よりの水終るくともあはれ 康賢王母

同 若くとも中よりの水終るくともあはれ 康賢王母

同 若くとも中よりの水終るくともあはれ 康賢王母

同秋七

終く小人ゆり申れ馬水使り道うちるや日とまじひ

百承

同冬

氣の風吹申小初れ馬水使り道うちるや日とまじひ

平重時

同春四

あまのこ春に坂井の馬水使り道うちるや日とまじひ

推注

新撰古今恋五

藤原の牛馬水使り道うちるや日とまじひ

伊勢大輔

同

秋見のや今の馬水使り道うちるや日とまじひ

法守守通

同

申し小こぬれ馬水の馬水使り道うちるや日とまじひ

春山別荘

賀茂茂 社川川原神 山城 愛宕郡

古今恋一

千子孫賀茂茂の馬水使り道うちるや日とまじひ

後人不知

同大方取

あま孫の馬水使り道うちるや日とまじひ

敏行

後撰夏

あま孫の馬水使り道うちるや日とまじひ

後人不知

同雜二

あま孫の馬水使り道うちるや日とまじひ

敦忠朝臣

同

あま孫の馬水使り道うちるや日とまじひ

三条右大臣

拾遺雜恋

あま孫の馬水使り道うちるや日とまじひ

共妻

後拾遺雜

あま孫の馬水使り道うちるや日とまじひ

田松江

同四

あま孫の馬水使り道うちるや日とまじひ

安法法師

かといりて

神主忠頼

同

あま孫の馬水使り道うちるや日とまじひ

和泉三郎

同雜七

あま孫の馬水使り道うちるや日とまじひ

大女院中將

同上

あま孫の馬水使り道うちるや日とまじひ

馬内侍

同神祇

あま孫の馬水使り道うちるや日とまじひ

式子内親王

賀茂茂の馬水使り道うちるや日とまじひ

同

あま孫の馬水使り道うちるや日とまじひ

賀茂重保

新古恋四

あま孫の馬水使り道うちるや日とまじひ

後人不知

新撰撰夏

あま孫の馬水使り道うちるや日とまじひ

同

賀茂茂の馬水使り道うちるや日とまじひ

同津波

あま孫の馬水使り道うちるや日とまじひ

法成寺入道

あま孫の馬水使り道うちるや日とまじひ

前攝政大臣

同

あま孫の馬水使り道うちるや日とまじひ

貫之

後撰撰夏

あま孫の馬水使り道うちるや日とまじひ

上東門院



後拾遺紙 常流さうとの海原を海ふひまをまの愛の始ちるん 関白前左大臣

同 八しうおとの旗のゆらうと守りて下も礼儀 左原光俊

同 守まてくつと乃旗のそは津系ゆふふと夜もなるめ 前内大臣基

後拾遺雜春 内後さる麻のゆふして波のりて海川成ぬもの川も 入道内大臣

玉葉神祇 まくたひはむむもまきさるかに社のおとけに社 定家

同 けのむむの川波をゆらうとむむむむむむむむむむむむ 顯輔

十月廿ふうとよあふむそて 曠如こまよとゆある

同 今もたのめさうわらう若きとめ成てゆしうとの川波 増基法師

同 長しかかとの川波を帰るとまけふたがさうけうとのま 俊成

後千載紙 千の採もの社のおひまふさ守まてくつと乃旗のそは 松子内親王

風雅夏 とも若きと三系さうらうもゆてま世えあうもれら 家記伊

同 内後さるゆらう波もらうとて社河はくとの川水 俊成

同冬 山あいの浦乃月もまてあてお次もあも入川も 前左大臣

同雜上 ちうりむむむむのあふむむむむむむむむむむむむむ 俊成

同神祇 今もたのめさうわらう若きとめ成てゆしうとの川波 為定

同 長しかかとの川波を帰るとまけふたがさうけうとのま 左原雅弘

新拾遺夏 大ぬまや唐のゆらうしておらひさゆ後海さうもの川水 進子内親王

同神祇 ちの採もの社のおひまふさ守まてくつと乃旗のそは 賀茂経久

新後拾遺夏 千の採もの社のおひまふさ守まてくつと乃旗のそは 定家

同恋三 悪しとせうの旗のゆらうと守りて下も礼儀 前内大臣

同雜中 うもせうそ危のくつと成ぬまやま流むさうもの川水 正三位秀経

同神祇 百歳のまのあまの志あけ小佛の力をもねてくつと 慈鎮

同 若我ののりたてあふゆとまもさうけうとの川波 俊成

同 千の採もの社のおひまふさ守まてくつと乃旗のそは 信実

同 ちの採もの社のおひまふさ守まてくつと乃旗のそは 権中納言世

同 志と守りてくつと乃旗のそはあてくつと乃旗のそは 賀茂秀久

神山 山城 後守郡

後拾遺夏 奴木取おひまふさ守まてくつと乃旗のそはあてくつと乃旗のそは 曹林好忠

同 ちの採もの社のおひまふさ守まてくつと乃旗のそはあてくつと乃旗のそは 皇后宮作

金葉夏

林少のりよきあつりお花をさうさあめひい

中納言実行

千載夏

林少の松ゆめ内もきよらうとをまをうらうらと

式子内親王

同秋上

林少の松ゆめ内もきよらうとをまをうらうらと

賀茂重政

新古今夏

林少の松ゆめ内もきよらうとをまをうらうらと

小侍従

同雜上

林少の松ゆめ内もきよらうとをまをうらうらと

式子内親王

新勅撰

林少の松ゆめ内もきよらうとをまをうらうらと

推任

同

林少の松ゆめ内もきよらうとをまをうらうらと

賀茂重政

同雜一

林少の松ゆめ内もきよらうとをまをうらうらと

左不顯涇

後後撰質

林少のりよきあつりお花をさうさあめひい

正三位成実

後古今夏

林少のりよきあつりお花をさうさあめひい

家隆

同

林少のりよきあつりお花をさうさあめひい

後鳥羽院

後拾遺冬

林少のりよきあつりお花をさうさあめひい

賀茂氏久

同雜春

林少のりよきあつりお花をさうさあめひい

後人不知

同

林少のりよきあつりお花をさうさあめひい

俊成

同雜上

林少のりよきあつりお花をさうさあめひい

西園寺入道

同林紙

林少のりよきあつりお花をさうさあめひい

前太政大臣

同雜上

林少のりよきあつりお花をさうさあめひい

後鳥羽院

同

林少のりよきあつりお花をさうさあめひい

天香座主

玉葉恋四

林少のりよきあつりお花をさうさあめひい

賀茂氏久

同雜

林少のりよきあつりお花をさうさあめひい

定家

同

林少のりよきあつりお花をさうさあめひい

從三位氏久

同

林少のりよきあつりお花をさうさあめひい

前大納言

同

林少のりよきあつりお花をさうさあめひい

二条院

同

林少のりよきあつりお花をさうさあめひい

為家

同

林少のりよきあつりお花をさうさあめひい

從三位氏久

同

林少のりよきあつりお花をさうさあめひい

等持氏贈

同

林少のりよきあつりお花をさうさあめひい

賀茂氏久

同

林少のりよきあつりお花をさうさあめひい

賀茂氏久

同

林少のりよきあつりお花をさうさあめひい

源頼真

同

林少のりよきあつりお花をさうさあめひい

源頼真

新古今夏

二十五

同津紙

年へおちりし神の神といひくはまをりしを御事人 世に教人

新後拾遺夏

ふをいひつるよるひく神のまゝあひやれ成心 匡房

同賀

神の藤といひるんじのまゝの御事代のうま 同

新後古今夏

あつと神ねあひりし神の道と君もや御事代 無品親王

同冬

さうまことさうまの御事代と神の道と君もや御事代 曾孫好忠

同雜上

神の藤といひるんじのまゝの御事代と神の道と君もや御事代 從三位備

鴨羽川

山城

後室部

さうまの御事代と神の道と君もや御事代と神の道と君もや御事代 前大臣

片岩

神社

同

同

千載津紙

さうまの御事代と神の道と君もや御事代と神の道と君もや御事代 賀茂政平

新古今賀

時を神といひるんじのまゝの御事代と神の道と君もや御事代 紫式部

新初撰秋下

片岩の神といひるんじのまゝの御事代と神の道と君もや御事代 右大臣

玉葉秋上

さうまの御事代と神の道と君もや御事代と神の道と君もや御事代 後醍醐天皇

後拾遺夏

さうまの御事代と神の道と君もや御事代と神の道と君もや御事代 賀茂雅久

風雅津紙

さうまの御事代と神の道と君もや御事代と神の道と君もや御事代 賀茂雅久

後三条院御時祇園より新撰御事代と神の道と君もや御事代

さうまの御事代と神の道と君もや御事代と神の道と君もや御事代

後拾遺津紙

ちりちり振ると神の道と君もや御事代と神の道と君もや御事代 右大臣

玉葉神祇

我々の御事代と神の道と君もや御事代と神の道と君もや御事代 祇園の神

新千載津紙

千の御事代と神の道と君もや御事代と神の道と君もや御事代 弘詮

古今旅場

さうまの御事代と神の道と君もや御事代と神の道と君もや御事代 文屋康秀

善取山

同

古今秋下

さうまの御事代と神の道と君もや御事代と神の道と君もや御事代 在原元方

同

さうまの御事代と神の道と君もや御事代と神の道と君もや御事代 忠孝

後撰刑

さうまの御事代と神の道と君もや御事代と神の道と君もや御事代 後人不知

同冬

さうまの御事代と神の道と君もや御事代と神の道と君もや御事代 宗行朝臣

金葉秋下

さうまの御事代と神の道と君もや御事代と神の道と君もや御事代 後人不知

風雅冬

さうまの御事代と神の道と君もや御事代と神の道と君もや御事代 本大臣頼基

鹿背山

山城

相樂郡





同雜上

新後拾遺下秋

同雜春

古今春上

同

同

同賀

同感

後撰看上

同

同

同

同恋二

月のあはれ極の心を思ふとくはなは後のうらみかたらん

久遠の中よここよ里の文然をいふれをよもあはれに式

里の月のね極ふと愛をいふれかたもやえとらん

春日月 野神杜山 杜原 久ね 添上郡

守り野をよふふ焼くもあはれ妻もよめり我も思ひ

春日のよふふ野守野をよふくもええ若ふ橋心

守りのあはれとて白ゆの袖ありてて女のけらん

春日野ふゆふ橋心方代もよふふを結ふとらん

春のよふふの山又野の日はかたけりて思ふをけり

春のよふふ野守野をよふくもええ若ふ橋心

露の春日の野ふゆふも中を成みてふふも橋心

春日野ふゆふ野守野をよふくもええ若ふ橋心

春日のよふふ野守野をよふくもええ若ふ橋心

春日のよふふ野守野をよふくもええ若ふ橋心

七条后

津守経国

庚久不社

後人不知

同

貫之

典侍杜原

忠岑

躬恒

後人不知

躬恒

後人不知

同

同賀

同神系

同雜春

同

同

同雜恋

後拾遺春

同

同賀

同恋四

同雜五

同返

金葉春

同秋

二葉のうらみのりては春日のよふふ野守野をよふくもええ若ふ橋心

春日野のよふふ野守野をよふくもええ若ふ橋心

春日のよふふ野守野をよふくもええ若ふ橋心

春日のよふふ野守野をよふくもええ若ふ橋心

春日のよふふ野守野をよふくもええ若ふ橋心

春日のよふふ野守野をよふくもええ若ふ橋心

春日のよふふ野守野をよふくもええ若ふ橋心

春日のよふふ野守野をよふくもええ若ふ橋心

春日のよふふ野守野をよふくもええ若ふ橋心

春日のよふふ野守野をよふくもええ若ふ橋心

春日のよふふ野守野をよふくもええ若ふ橋心

春日のよふふ野守野をよふくもええ若ふ橋心

春日のよふふ野守野をよふくもええ若ふ橋心

春日のよふふ野守野をよふくもええ若ふ橋心

能宣

左平忠房

中宮内侍

左平忠房

同

榜本丸

能宣

和泉式部

能回法師

入道藤原

入道藤原

公任

二条前太政大臣千時

大命長

経信

同雜上

去日山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

源所光

詞花春

去日山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

源重之

同雜上

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

師頼

千載春上

去日山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

俊頼

同雜中

春日山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

左近督行

新古今春

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

権納言信

同

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

土生忠見

同

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

前番議教

同

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

九河内躬恒

同

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

土生忠見

同

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

後政大臣

同

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

業平

同

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

家隆

同

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

中納言賢

同

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

俊成

同

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

前因白

同

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

後京極

同

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

僧行意

同

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

諺人不知

同

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

金言直親王

同

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

前大納言忠

同

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

俊成

同

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

諺人不知

同

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

前大政大臣

同

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

躬恒

同

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

順徳院

同

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

人磨

同

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

式部直實

同

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

春日大明神

同

かまら山空はくきほねもささくはるるのたもあけり

泰議清行

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

馬のやうなうの好く今も昔もして好む者も人柄のあやう

まのやうなうの好く今も昔もして好む者も人柄のあやう

まのやうなうの好く今も昔もして好む者も人柄のあやう

まのやうなうの好く今も昔もして好む者も人柄のあやう

まのやうなうの好く今も昔もして好む者も人柄のあやう

まのやうなうの好く今も昔もして好む者も人柄のあやう

まのやうなうの好く今も昔もして好む者も人柄のあやう

まのやうなうの好く今も昔もして好む者も人柄のあやう

まのやうなうの好く今も昔もして好む者も人柄のあやう

まのやうなうの好く今も昔もして好む者も人柄のあやう

まのやうなうの好く今も昔もして好む者も人柄のあやう

まのやうなうの好く今も昔もして好む者も人柄のあやう

まのやうなうの好く今も昔もして好む者も人柄のあやう

まのやうなうの好く今も昔もして好む者も人柄のあやう

まのやうなうの好く今も昔もして好む者も人柄のあやう

まのやうなうの好く今も昔もして好む者も人柄のあやう

まのやうなうの好く今も昔もして好む者も人柄のあやう

まのやうなうの好く今も昔もして好む者も人柄のあやう

まのやうなうの好く今も昔もして好む者も人柄のあやう

まのやうなうの好く今も昔もして好む者も人柄のあやう

まのやうなうの好く今も昔もして好む者も人柄のあやう

まのやうなうの好く今も昔もして好む者も人柄のあやう

まのやうなうの好く今も昔もして好む者も人柄のあやう

まのやうなうの好く今も昔もして好む者も人柄のあやう

法隆寺入道

初代大臣

入道

順徳院

後京極

俊成

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同





同下  
同神祇

竹葉の通を由はしむる春日の神の事ふすをそ  
如くしてあはれむと申せりしをそと神と名けりし

深田院  
前左大臣  
中臣結臣

春日系社記後

同

まのりも光りてや照るらんかむれはくはくは

俊成

同

如くして雪のふりては夜露のたれをそとく

雅経

同

野のこを焼くをこく春日の神の事ふすをそと

淡小不知

同

ぬきぬきのふりては春日の神の事ふすをそと

淡小不知

同春下

ぬきぬきのふりては春日の神の事ふすをそと

淡小不知

同神祇

ぬきぬきのふりては春日の神の事ふすをそと

朝恒

同

ぬきぬきのふりては春日の神の事ふすをそと

鳥定

同

ぬきぬきのふりては春日の神の事ふすをそと

等持院  
左大臣

同

ぬきぬきのふりては春日の神の事ふすをそと

前田白

新拾遺春上

ぬきぬきのふりては春日の神の事ふすをそと

花園院  
山内赤人

同

ぬきぬきのふりては春日の神の事ふすをそと

定家

同神祇

ぬきぬきのふりては春日の神の事ふすをそと

中臣栴通

同

ぬきぬきのふりては春日の神の事ふすをそと

前大納言  
宗道内大臣

同雜上

ぬきぬきのふりては春日の神の事ふすをそと

前大納言  
宗道内大臣

同中

ぬきぬきのふりては春日の神の事ふすをそと

前大納言  
宗道内大臣

新拾遺春上

ぬきぬきのふりては春日の神の事ふすをそと

伊勢

同

ぬきぬきのふりては春日の神の事ふすをそと

馬茂

同

ぬきぬきのふりては春日の神の事ふすをそと

大中臣能宣

同雜春

ぬきぬきのふりては春日の神の事ふすをそと

三善為連

同

ぬきぬきのふりては春日の神の事ふすをそと

氏子資宣

同神祇

ぬきぬきのふりては春日の神の事ふすをそと

藤原深養

新拾遺春上

ぬきぬきのふりては春日の神の事ふすをそと

藤原深養

同

ぬきぬきのふりては春日の神の事ふすをそと

鹿花院  
前大納言

同質

ぬきぬきのふりては春日の神の事ふすをそと

中納言

同雜上

ぬきぬきのふりては春日の神の事ふすをそと

前大納言

同 同 同 同 同

春日山より成なるるありおきと長りのみわらるる波  
萩のくれらひつらふもきりのつらきる長うりらん  
まはせの雪まふおはしめし出るるまきる霜あふ金  
来ふまのひの長き春日のつらふもきりまはせらん  
春日山より成なるるありおきと長りのみわらるる波

前大僧正通  
紀俊を  
法や藤之連  
権大納言  
権中納言  
権左大臣

葛城山 橋神 高峯 大和

支太多取の  
後撰秋下

春日山より成なるるありおきと長りのみわらるる波

實之  
後人不知

同恋三

葛城山より成なるるありおきと長りのみわらるる波

同

同五

葛城山より成なるるありおきと長りのみわらるる波

同

同返

葛城山より成なるるありおきと長りのみわらるる波

同

拾遺恋二

葛城山より成なるるありおきと長りのみわらるる波

同

同三

葛城山より成なるるありおきと長りのみわらるる波

同

同四

葛城山より成なるるありおきと長りのみわらるる波

同

後拾遺秋上

葛城山より成なるるありおきと長りのみわらるる波

惟宗為注

同恋三

葛城山より成なるるありおきと長りのみわらるる波

相撰

金葉冬

葛城山より成なるるありおきと長りのみわらるる波

俊頼

千載春上

葛城山より成なるるありおきと長りのみわらるる波

俊頼

同秋上

葛城山より成なるるありおきと長りのみわらるる波

俊頼

同下

葛城山より成なるるありおきと長りのみわらるる波

俊頼

同雜上

葛城山より成なるるありおきと長りのみわらるる波

道法親王

新古今春上

葛城山より成なるるありおきと長りのみわらるる波

仰頼

同

葛城山より成なるるありおきと長りのみわらるる波

寂蓮法師

同秋下

葛城山より成なるるありおきと長りのみわらるる波

人丸

同

葛城山より成なるるありおきと長りのみわらるる波

権納言

同恋冬

葛城山より成なるるありおきと長りのみわらるる波

雅經

同恋二

葛城山より成なるるありおきと長りのみわらるる波

後人不知

同五

葛城山より成なるるありおきと長りのみわらるる波

能宣

新勅撰春上

葛城山より成なるるありおきと長りのみわらるる波

鎌倉石大臣

同下

葛城やうたけや秋白ひはる風や花のさき梅より

友原隆祐  
後京極

同冬

あつめい葛城山あつめいむねねをまきかへる花は

前中納言  
友原隆祐

同中

梅の花をいふさるるあつめいあつめいあつめいあつめい

西園寺入道  
前太政大臣  
前参議  
定

同秋中

あつめいあつめいあつめいあつめいあつめいあつめい

後京極

同恋二

あつめいあつめいあつめいあつめいあつめいあつめい

中納言  
賢

同恋四

あつめいあつめいあつめいあつめいあつめいあつめい

權大納言  
後堀河院  
長之典侍  
家隆

同雜上

あつめいあつめいあつめいあつめいあつめいあつめい

順徳院  
有家

同

あつめいあつめいあつめいあつめいあつめいあつめい

源具氏  
西園寺入道  
前太政大臣

同秋下

あつめいあつめいあつめいあつめいあつめいあつめい

巨房  
家隆

同

あつめいあつめいあつめいあつめいあつめいあつめい

信安

同秋

あつめいあつめいあつめいあつめいあつめいあつめい

中務卿  
親王  
後美濃院  
平義宗

同秋

あつめいあつめいあつめいあつめいあつめいあつめい

前参議  
有

同

あつめいあつめいあつめいあつめいあつめいあつめい

前中納言  
兼  
友原隆信

同恋一

あつめいあつめいあつめいあつめいあつめいあつめい

鎌倉左大臣  
武子内親王  
常盤井入道  
前太政大臣  
山階道玄  
大

同春下

あつめいあつめいあつめいあつめいあつめいあつめい

邦有親王  
家隆

同

あつめいあつめいあつめいあつめいあつめいあつめい

家隆

同

あつめいあつめいあつめいあつめいあつめいあつめい

家隆

同冬

葛城やたらの山よりけりし花をみたりし時を憶ふなり 入道高親

同恋四

葛城やらの山を憶ふ中よりけりし花をみたりし時を憶ふなり 冷泉太政大臣

同雜上

乃らふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 友原保能

同

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 後人不知

同

とほりしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 丹波尚長

同 後後拾遺上

春を憶ふにけりし花をみたりし時を憶ふなり 前大納言

同

ゆらふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 衣笠前大臣

同

ゆらふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 巨房

同下

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 後成女

同秋下

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 津守国道

同雜下

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 贈後三位

同 月雅恋一

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 家隆

同 新千載春

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 後西園寺入道

同 同秋上

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 後光厳院

同 同下

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 前大僧正

同

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 馬秀

同 同夏

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 壬生忠見

同 同秋上

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 後醍醐院

同下

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 巨房

同 同旅

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 從三位長經

同 同恋一

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 法中云順

同 同四

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 家隆

同

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 実方

同 同雜上

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 源和義

同 新後拾遺下

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 前関白左大臣

同

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 近衛

同

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 後三条入道

同 同雜秋

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 前太政大臣

同 新後拾遺上

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 一后法親王

同

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 龍大臣

同 同雜秋

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 右大臣

同 新後拾遺上

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり 家隆

同

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり

同

あふまふまをよみしにけりし花をみたりし時を憶ふなり

同春下

葛城の夜人書とく歌集風と書ふらうやまの夜白中とん 平宗宣

同夏

春も今春に橋の町を好くとふるも白くくまのやま 俊成女

同秋上

雲の野路葛城山にありあふもはなをばはるくよは 雅縁

同秋下

ゆの風は下葉うつらぬと柳の葛城山にたるとたたり 後次我大政殿

同春上

葛城やうらふ思ひの春のまなをいふ歌の秋のゆふ書 如願法師

同春下

葛城やうらふ思ひの春のまなをいふ歌の秋のゆふ書 如願法師

古今秋下

神南備川社 梅列山 丹波 有同名 有同名 大和 後次不知

同

津雲の雨の時もすくぬがくもあてふらうと群るひの秋 同

同

らうもぬと群るひの山の紅葉とふさひもあてふらうと群るひの秋 同

後撰夏

津雲の雨の時もすくぬがくもあてふらうと群るひの秋 同

同冬

津雲の雨の時もすくぬがくもあてふらうと群るひの秋 同

拾遺冬

津雲の雨の時もすくぬがくもあてふらうと群るひの秋 同

金葉春

春少くも群るひの川よもあてふらうと群るひの秋 大貳長実

詞苑冬

津雲の雨の時もすくぬがくもあてふらうと群るひの秋 同

新撰撰本

千の根群るひの山もすくぬがくもあてふらうと群るひの秋 好忠

同春一

蛸鳴群るひの河よもあてふらうと群るひの秋 金道則政大

同春二

下葉とふらふ思ひの春のまなをいふ歌の秋のゆふ書 從三位家隆

後撰撰本

つとむらうと群るひの川よもあてふらうと群るひの秋 大守師馬徑

同冬

夏少くも群るひの川よもあてふらうと群るひの秋 右大臣俊

同

冬のまなをいふ歌の秋のゆふ書 金道則政大

後撰撰本

今もつとむらうと群るひの川よもあてふらうと群るひの秋 荒木田屋季

同冬

おまののらうと群るひの川よもあてふらうと群るひの秋 後次不知

同春

群るひの山の春のまなをいふ歌の秋のゆふ書 院弁内侍

後撰撰本

冬のまなをいふ歌の秋のゆふ書 道前政大

新撰撰本

夏少くも群るひの川よもあてふらうと群るひの秋 馬家

同

千の根群るひの山もすくぬがくもあてふらうと群るひの秋 野宮正長

同秋下

さうもつとむらうと群るひの川よもあてふらうと群るひの秋 護綱言

同秋上

おまののらうと群るひの川よもあてふらうと群るひの秋 護綱言

玉葉秋下

おまののらうと群るひの川よもあてふらうと群るひの秋 護綱言

後撰撰本

おまののらうと群るひの川よもあてふらうと群るひの秋 護綱言

後後撰冬 為らう後らひ給しおまゝのりちるはもあて津るひの社 淡々隆剛

風雅夏 ゆかきくひ越つてむ那え神事ひ山又今うあくあり 若原仲実

同冬 津島ひ山志の因の事あはむうひまゐる宮の祝名は 後元宗院

新撰送秋下 為てうらうらふ秋のまをたかめてまゐる津島ひの社 僧正良瑜

同恋四 津島ひの神事ひはたてしうらうらふ久々ひのり中武 後徳本寺前

河原山 山野 大和 葛下郡 山城有 同右

古今秋下 芳きて福うらむるうらうらう景あまこれ余ははるる心 淡々不知

拾送春 あまうらうらあまうらうらと片雲の影あまをうらうら 人磨

同恋傷 ままうらうら片雲山のひひうらうておまゝの事あまあり 聖徳太子

後撰送春 くらあまうらうらうらうら片雲の影あまをうらうら 若原長龍

千載春上 去雨の澄初しうらうてかゝる景あまのうらうてははるる心 基俊

後撰撰春 くらあまうらうらうらうら片雲の影あまをうらうら 前内大臣

後撰送秋上 くらあまうらうらうらうら片雲の影あまをうらうら 津守経国

新撰撰春上 くらあまうらうらうらうら片雲の影あまをうらうら 光明寺寺

新撰載秋 くらあまうらうらうらうら片雲の影あまをうらうら 金道前長龍

栢木社 同

拾送雜恋 くらあまうらうらうらうら片雲の影あまをうらうら 右近

後撰送雜 くらあまうらうらうらうら片雲の影あまをうらうら 大納言道淵

同 春あまの影あまうらうらうらうら片雲の影あまをうらうら 馬内侍

新撰恋 くらあまうらうらうらうら片雲の影あまをうらうら 馬内侍

後撰今冬 くらあまうらうらうらうら片雲の影あまをうらうら 土山院

同恋 くらあまうらうらうらうら片雲の影あまをうらうら 監余婦

同 くらあまうらうらうらうら片雲の影あまをうらうら 僧正遍昭

新撰今冬 くらあまうらうらうらうら片雲の影あまをうらうら 院前長龍

神牆山 大和

後撰冬 くらあまうらうらうらうら片雲の影あまをうらうら 後不知

手業春下 くらあまうらうらうらうら片雲の影あまをうらうら 宗孝親王

軽地市 同 高市郡

手業恋三 くらあまうらうらうらうら片雲の影あまをうらうら 紀皇女

三葉恋三

新千載雜中り年とくおの市人位をわれとくもきもるたたとたて 為友

蜻蛉小野

新後撰恋 知れしと霞波よこめくもあちれきとの着き下はゆも 為家

後千載雜 多ちふのどけく若き素は指れりさるる花を西ふは 土内内院

新拾遺夏 雲うらるる夕日を空にひらふのどけくわさく風う流す 道三 寛喜

秋小野

新後撰恋 月見の形のよけく女多た思ひなをぬ人やお見 前納言 各

同恋一 一月見の形のよけく女多た思ひなをぬ人やお見 源範政

金草嶽

金草嶽 金草嶽の山よまよらるるそ物うりく入付て侍あり 中屋

千載天教 夏さめんその暇とさうがそのやきもてくせは乃灯 友家 敦家

交野

交野 里原 河内 交野郡 石原 為世

後撰恋五 色とこのころへくそく我をけりまをほはる思ふべ 内倉 家肥

同恋下 色とこのころへくそく我をけりまをほはる思ふべ 俣人 不知

同秋下 鶺鴒もく交野未だてく撫ね素おあけしよあさ風はく 前奉議院

同冬 鶺鴒もく交野のよけく女多た思ひなをぬ人やお見 崇徳院

同 鶺鴒もく交野のよけく女多た思ひなをぬ人やお見 法性寺 道

同 鶺鴒もく交野のよけく女多た思ひなをぬ人やお見 前田 良政

同恋一 鶺鴒もく交野のよけく女多た思ひなをぬ人やお見 左近将 公

新勅撰天教 鶺鴒もく交野のよけく女多た思ひなをぬ人やお見 後成

同恋一 鶺鴒もく交野のよけく女多た思ひなをぬ人やお見 法眼示 四

後後撰夏 天川をまよらるる成中あり交のなけくありぬのり 右原 伴実

後古今秋下 あまの川秋の歌ふ交野未麻の言をやらん 家隆

後拾遺秋下 いろせおお進ぬ常とと合おた交野あめぬぬりぬ 前内倉 基

同恋四 いろせおお進ぬ常とと合おた交野あめぬぬりぬ 俣人 不知

新後撰 いろせおお進ぬ常とと合おた交野あめぬぬりぬ 後或太 殿

玉葉冬 いろせおお進ぬ常とと合おた交野あめぬぬりぬ 前納言 賢

後千載恋三 いろせおお進ぬ常とと合おた交野あめぬぬりぬ 本大臣 為実

後拾遺様 いろせおお進ぬ常とと合おた交野あめぬぬりぬ 左近将 公





高野山とて位うりて後伊勢の國二身六浦の山寺  
おゆるりふた津宮の山寺とて津路山とて一と目  
女木の湯の湯とておひてふ人持の湯

千載林檎

ゆへに入て津路の奥とて高野とて又うまの死を此松を

四位法師

新古今神祇

るあまも津路の山とて高野とて又うまの死を此松を

太上天皇

同

津路の山とて又うまの死を此松を

西行法師

新撰神祇

於麻の山とて高野とて又うまの死を此松を

後景極

同 雑二

くまの山とて高野とて又うまの死を此松を

荒木田成長

後撰神祇

津路の山とて高野とて又うまの死を此松を

前大政大臣

同

津路の山とて高野とて又うまの死を此松を

僧正行意

同

津路の山とて高野とて又うまの死を此松を

躬恒

同

小車之錦とて高野とて又うまの死を此松を

大上天皇

同

津路の山とて高野とて又うまの死を此松を

後人不知

同

津路の山とて高野とて又うまの死を此松を

同

同

津路の山とて高野とて又うまの死を此松を

荒木田成長

同賀

津路の山とて高野とて又うまの死を此松を

土法門院小  
宰相

同

津路の山とて高野とて又うまの死を此松を

三聖法親王

同

津路の山とて高野とて又うまの死を此松を

荒木田成長

同

津路の山とて高野とて又うまの死を此松を

贈從臣子

同

津路の山とて高野とて又うまの死を此松を

荒木田成長

同賀

津路の山とて高野とて又うまの死を此松を

常樂寺

同

津路の山とて高野とて又うまの死を此松を

前大政大臣

同

津路の山とて高野とて又うまの死を此松を

連智門院

同

津路の山とて高野とて又うまの死を此松を

後茶膳内

同

津路の山とて高野とて又うまの死を此松を

後鳥羽院

同

津路の山とて高野とて又うまの死を此松を

後興念院

同

津路の山とて高野とて又うまの死を此松を

開白大政

同

津路の山とて高野とて又うまの死を此松を

前大政

同

津路の山とて高野とて又うまの死を此松を

前大政

同

津路の山とて高野とて又うまの死を此松を

前大政





後拾遺秋

風雅雜下

新千載下

同

新拾遺冬

新拾遺秋

新後拾遺

新後拾遺

同雅上

同本最

後換秋下

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

後拾遺秋

風雅雜下

新千載下

同

新拾遺冬

新拾遺秋

新後拾遺

新後拾遺

同雅上

同本最

後換秋下

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

鳥羽院

從二位為子

前僧正藤原

二法親王

權大納言

法下延令

法眼玄全

雅任

祝部元仲

大伴黑主

同

善性法師

貫之

坂上村

能登則

中務

惠美法師

大貳長實

攝政左大臣

前奏藤原

宮内少輔

同

藤田

祝部成茂

前中納言

正三位藤原

德全寺大

臣美能云

前奏議有

法眼成兼

前僧正良超

同雜上

同

同賀

同賀

同

新拾遺

同別

新後拾遺

同

新後拾遺

同冬

同恋四

同雜中

拾遺賀

後山をたむけし霜雪のうらさちのふりてゆく年々

二休そそふあふれ後山んらとらしりくもゆふ

我志の千とせの多秋後山其のゆりかたうたのこ

まじりてははは道江の後山よりほとを今もる後

志をあつて八咫の後のでつるまきそくしとひる世て

小がもあつたの初もあつた後山ゆふもあつた也

えん系は秋とをみよ後山とてふんよるもあつた也

後山よりあつたのゆふもあつた也とみくもあつた也

火のあつたをたむけし霜雪のうらさちのふりてゆく年々

らるるあつたをたむけし霜雪のうらさちのふりてゆく年々

あつたをたむけし霜雪のうらさちのふりてゆく年々

後山よりあつたのゆふもあつた也とみくもあつた也

とらりてあつたをたむけし霜雪のうらさちのふりてゆく年々

浦生の子をたむけし霜雪のうらさちのふりてゆく年々

二高階聖助

前大納言

後人不知

加願法師

正三位隆教

為友

為世

安西門院高

前関白近

山階道前左

贈從三位子

源經氏

前大僧正隆

後人不知

金葉恋下

堅田

浦中

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

此のふとあまのうらさちのふりてゆく年々

いづれは又あまのうらさちのふりてゆく年々

あまのうらさちのふりてゆく年々

あまのうらさちのふりてゆく年々

あまのうらさちのふりてゆく年々

あまのうらさちのふりてゆく年々

あまのうらさちのふりてゆく年々

あまのうらさちのふりてゆく年々

あまのうらさちのふりてゆく年々

あまのうらさちのふりてゆく年々

あまのうらさちのふりてゆく年々

あまのうらさちのふりてゆく年々

あまのうらさちのふりてゆく年々

あまのうらさちのふりてゆく年々

後人不知

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

高階宗成

祝部成賢

四光院入道

前関白大政

源隆法仲

前僧正

前内大臣

家隆

関白左大臣

從五位隆博

山階道隆

為道朝臣

龜岳

内江

後冷泉院時天壽會以屏風を以て龜岳松

樹多生

後拾遺賀 万葉を世に傳へてなつる龜岳の松なる松乃縁より 三浦兼實

風越半

信濃

さよのの末の上をてなつ時よまの麓の松とてさよの松 左宗家經

千載夏 白あつ雪煙さゆると同あつ雪さうつる冬あつ雪の松 友宗清辨

新拾遺雜上 風さあつ雪の松とてさよの松とてさよの松 友宗為重

可保夜泊 上野

東流のふやか派乃杜若春とてさよの松とてさよの松 修理亮秋

加嶋 陸奥

はくせも長松とてさよの松とてさよの松 源順

玉葉恋一 帰山 越前

あつ雪の松とてさよの松とてさよの松 三の俊定

古今別 同雜 在原義家

後撰別 我との思ひの松の松とてさよの松とてさよの松 淡人不知

千載冬 松とてさよの松とてさよの松とてさよの松 右近左衛門

同 越前 松とてさよの松とてさよの松とてさよの松 頼政

同別 馬松の松とてさよの松とてさよの松とてさよの松 俊頼

同 松とてさよの松とてさよの松とてさよの松 西行法師

新古今別 松とてさよの松とてさよの松とてさよの松 伊勢

同恋三 松とてさよの松とてさよの松とてさよの松 賀茂重政

後撰撰恋三 松とてさよの松とてさよの松とてさよの松 俣人不知

後拾遺春上 松とてさよの松とてさよの松とてさよの松 金道三郎

同旅 松とてさよの松とてさよの松とてさよの松 津守経国

玉葉春上 春霞かをさよの松とてさよの松とてさよの松 花山院大臣

同雜 松とてさよの松とてさよの松とてさよの松 觀意法師

後撰拾遺上秋 松とてさよの松とてさよの松とてさよの松 家隆

同別 松とてさよの松とてさよの松とてさよの松 康資五

新千載別 松とてさよの松とてさよの松とてさよの松 梅心法師

同雜中

新後落邊冬の山は海小の横の山ありてその山は道にさかす仲実

新後落邊冬

新後落邊冬の山は海小の横の山ありてその山は道にさかす仲実

同恋二

新後落邊冬の山は海小の横の山ありてその山は道にさかす仲実

得道池

加久久

藻塩草 當国

後三条公直

新初撰查

その山は道にさかす仲実

津南備山

丹波

和列石同名

後入不知

千載下法

その山は道にさかす仲実

長元九年後三条院の時大嘗會の基方乃律也

の年丹波國津南備山とよかり

同

その山は道にさかす仲実

松山

同

長元九年大嘗會の基方乃律也

千載賀

その山は道にさかす仲実

梶鳴

丹後

多紀郡 順和名 國郡如此

後古今雜中

その山は道にさかす仲実

懸渡

同

藻塩山 當国云

新後古今雜

その山は道にさかす仲実

幸荷鳴

同

藻塩草 當国云

後後撰夏

その山は道にさかす仲実

加久古

同

八重津抄 藻塩草 亦當国云

拾遺雜上

その山は道にさかす仲実

後古今雜中

その山は道にさかす仲実

玉葉雜二

その山は道にさかす仲実

新後古今雜

その山は道にさかす仲実

古今物名

その山は道にさかす仲実

唐琴泊

備前

津守國

岐の

安倍清行



同雜上

邦より之のまきとて取らむと云ふは波のまきにて同くは云ふ 貞世法師

神鷺

備中 小田郡 細列有同名

建久九年六月奉命命を基よの湯屏 同は備中國

神鷺を神祠とす

後拾遺實

神鷺の波のまきとて取らむと云ふは波のまきにて同くは云ふ 前守納言實

神鷺

紀伊

手葉

その波を塩田とすは神鷺は波のまきとて取らむと云ふは波のまきにて同くは云ふ 津守國冬

新後古今志

うた申すとて取らむと云ふは波のまきとて取らむと云ふは波のまきにて同くは云ふ 若田

袖蔵山

同 牟婁郡

後古今神祇

之無形乃神祇山の名とて同くは云ふとて取らむと云ふは波のまきにて同くは云ふ 道前太政官

秋野入浦

同

新

因室とて取らむと云ふは波のまきとて取らむと云ふは波のまきにて同くは云ふ 鎌倉天皇

同株

波のまきとて取らむと云ふは波のまきとて取らむと云ふは波のまきにて同くは云ふ 正三位知家

同雜上

その波のまきとて取らむと云ふは波のまきとて取らむと云ふは波のまきにて同くは云ふ 後今不知

後古今雜上

その波のまきとて取らむと云ふは波のまきとて取らむと云ふは波のまきにて同くは云ふ 入上天皇

後古今雜上

その波のまきとて取らむと云ふは波のまきとて取らむと云ふは波のまきにて同くは云ふ 前守納言實

同雜上

おとくもろとて取らむと云ふは波のまきとて取らむと云ふは波のまきにて同くは云ふ 若原忠能

新後拾遺冬

友平島とて取らむと云ふは波のまきとて取らむと云ふは波のまきにて同くは云ふ 為定

同雜上

油のまきとて取らむと云ふは波のまきとて取らむと云ふは波のまきにて同くは云ふ 信実

新後古今雜上

味とて取らむと云ふは波のまきとて取らむと云ふは波のまきにて同くは云ふ 後今不知

電門 山神

飯前 山笠郡

元捕つてくしとて取らむと云ふは波のまきとて取らむと云ふは波のまきにて同くは云ふ

ゆもろとて取らむと云ふは波のまきとて取らむと云ふは波のまきにて同くは云ふ

まをともとて取らむと云ふは波のまきとて取らむと云ふは波のまきにて同くは云ふ

霞とて取らむと云ふは波のまきとて取らむと云ふは波のまきにて同くは云ふ

飯前とて取らむと云ふは波のまきとて取らむと云ふは波のまきにて同くは云ふ

これら小電との波のまきとて取らむと云ふは波のまきとて取らむと云ふは波のまきにて同くは云ふ

藤原経衡

香推 官神海渡 同

千子の根香推のまきとて取らむと云ふは波のまきとて取らむと云ふは波のまきにて同くは云ふ

中主藤原武子

後今不知

新後古今雜上

その波のまきとて取らむと云ふは波のまきとて取らむと云ふは波のまきにて同くは云ふ

後今不知

後今不知

後今不知

新後古今雜上

その波のまきとて取らむと云ふは波のまきとて取らむと云ふは波のまきにて同くは云ふ





